

DELTA2 ロケットキャンペーン速報 : EISCAT レーダーの観測結果

Initial report of DELTA2 rocket campaign: results from the EISCAT radar observations

野澤 悟徳 [1]; 小川 泰信 [2]; 大山 伸一郎 [1]; 堤 雅基 [2]; 藤井 良一 [1]

Satonori Nozawa[1]; Yasunobu Ogawa[2]; Shin-ichiro Oyama[1]; Masaki Tsutsumi[2]; Ryoichi Fujii[1]

[1] 名大・太陽研; [2] 極地研

[1] STEL, Nagoya Univ; [2] NIPR

オーロラ活動の活発化に伴い、極域下部熱圏大気（高度 90-120 km）の運動（中性風）および温度は大きな変動を受ける。しかし、その変動機構の定量的な理解は、現在もなお観測的・計算機実験的な研究対象であり、未解明な問題が数多く残されている。このようなオーロラ活動に伴う下部熱圏における大気力学とエネルギー収支に関わる問題の解明を目的とした DELTA(Dynamics and Energetic of Lower Thermosphere in Aurora) ロケットキャンペーンが 2004 年 12 月に行われ、多くの成果が得られた。

この成果を踏まえて、DELTA2 ロケットキャンペーンが企画され、2009 年 1 月に実施された。キャンペーンは、2009 年 1 月 14 日に開始した。そして、1 月 26 日午前 0 時 15 分 (UT) にロケットが無事打ち上げられた。この DELTA2 キャンペーン期間中、EISCAT UHF レーダーを計 96 時間、CP-2 モードで運用し、電離圏観測を行った。本講演では、この DELTA2 キャンペーン期間に行われた EISCAT 観測データの観測結果を中心に報告する。